

[成果情報名] 水稻「なつほのか」の品質と収量を確保するための穂肥前生育指標

[要約] 水稻「なつほのか」の穂肥前の草丈×m²茎数×SPAD値とm²当たり籾数には正の相関がある。玄米重 60kg/a 以上で、かつ玄米粒厚 2mm 以上の重量比が 80%以上となる穂肥前生育指標は、草丈×m²茎数×SPAD 値×10⁻³で 1100 から 1500 である。

[キーワード] 水稻、なつほのか、籾数

[担当] 長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・作物研究室

[連絡先] (代表)0957-26-3330、(直通)0957-26-4350

[区分] 農産

[分類] 指導

[作成年度] 2018 年度

[背景・ねらい]

本県では、2016 年に高温登熟性に優れた早生水稲品種「なつほのか」を奨励品種に採用した。2018 年から本格生産が開始されたが、安定生産のためには品種特性にあわせた栽培管理の徹底が不可欠である。

そこで、「なつほのか」で多収かつ高品質米生産のための生育診断技術を確立するため穂肥前の生育と品質や収量と関連する m²当たり籾数との関係を明らかにし、「なつほのか」の高品質米生産に資する。

[成果の内容・特徴]

1. m²当たり籾数と粒厚 2.0mm 以上の重量比には負の相関がある。m²当たり籾数が 3 万粒を下回ると 2.0mm 以上の重量比が 80%以上になる傾向がある（図1）。
2. m²当たり籾数と玄米重には正の相関があり、2万6千粒を超えると a 当たり玄米重が 60kg 以上となる傾向がある（図2）。
3. 穂肥前の生育数値で m²当たり籾数との相関が最も高いのは草丈×m²茎数×SPAD 値である（表1）。
4. 草丈×m²茎数×SPAD 値×10⁻³は約 1100 から 1500 の範囲内で籾数は約 2万6千粒から 3 万粒となる（図3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本情報は農林技術開発センター内水田（標高 6 m、中粗粒グライ土）の普通期栽培（条間 30cm、株間 16cm、m²当たり 20.8 株）で得られたものである。
2. 穂肥は幼穂長約 2mm に施肥し、生育調査は穂肥の 3 日前に実施した。
3. 玄米は 1.8mm 調製後のもので調査した。

[具体的データ]

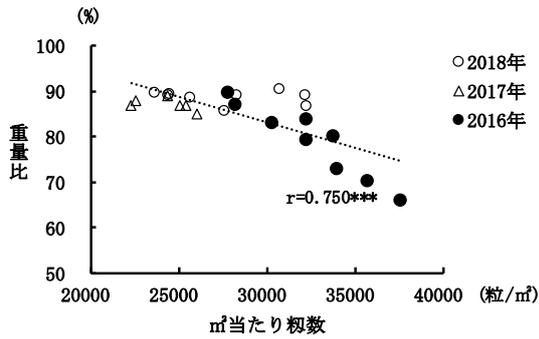


図1 m^2 当たり粒数と2.0mm以上玄米重量比

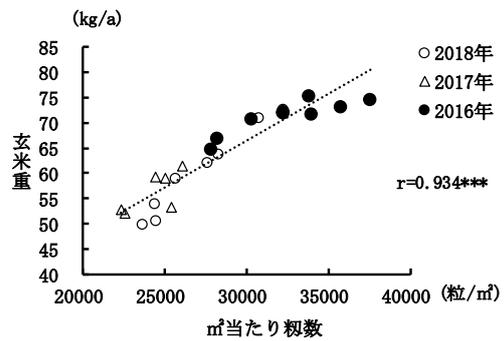


図2 m^2 当たり粒数と玄米重

注) 移植は3ヵ年とも6月20日、穂肥は窒素3kgを幼穂2mm時に1回施肥

表1 穂肥前の生育と粒数の相関係数

	草丈	m^2 基数	SPAD	草丈×SPAD	草丈× m^2 基数	m^2 基数×SPAD	草丈× m^2 基数×SPAD
相関係数	0.621	0.903	0.648	0.689	0.961	0.960	0.967

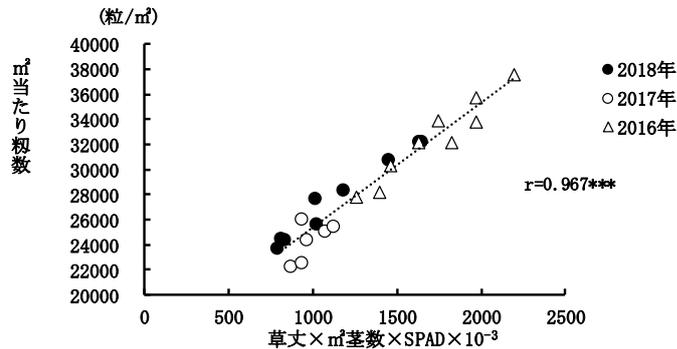


図3 穂肥前の生育と m^2 当たり粒数

注) 移植は3ヵ年とも6月20日、穂肥は窒素3kgを幼穂2mm時に1回施肥

[その他]

課題名：「おてんとそだち」等の栽培技術確立

予算区分： 県単

研究期間：2016～2019年

研究担当者：古賀潤弥、中山美幸